

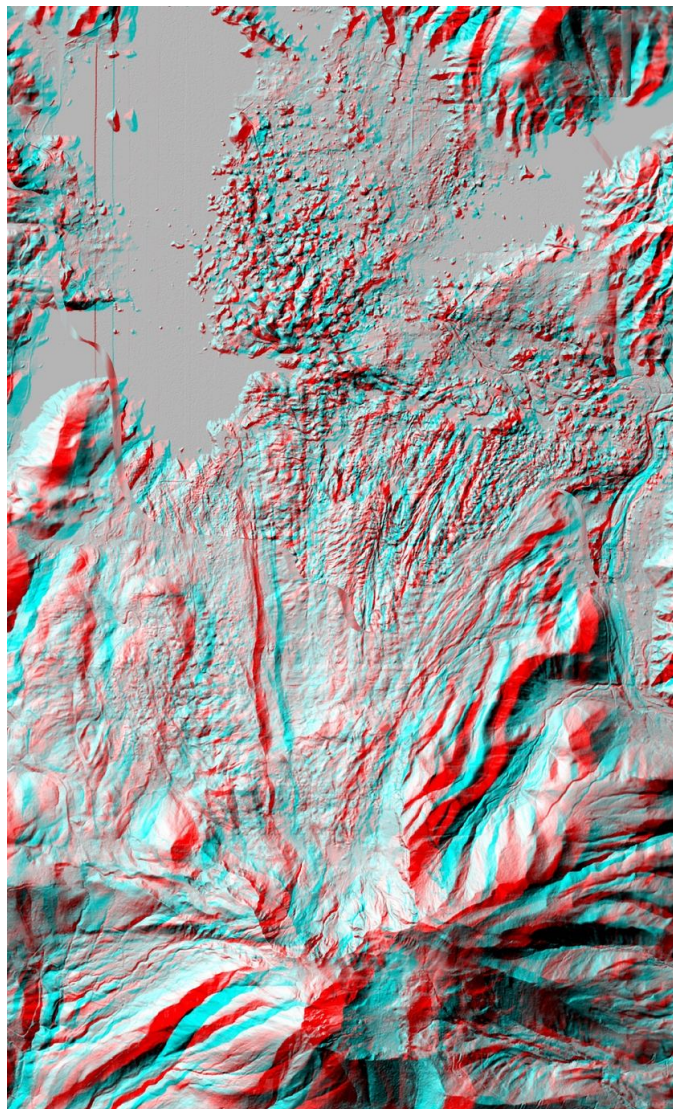
「磐梯高原の地形 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

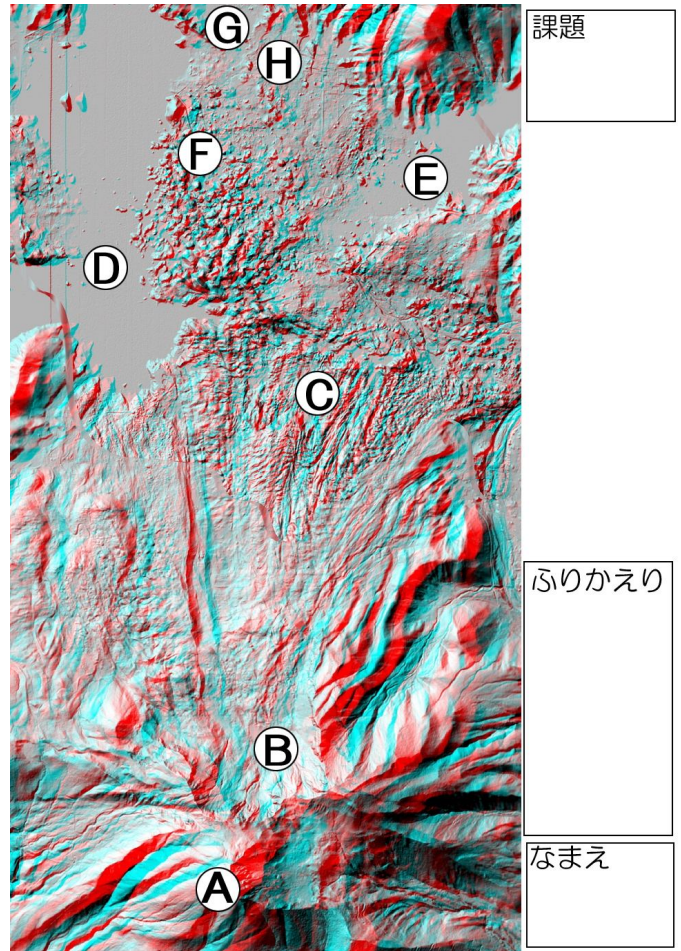
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

国土地理院のホームページでは、日本全国の地形図を閲覧できるだけでなく、過去の航空写真のダウンロード、立体的な地形データの閲覧などが、簡単な申請だけでできるようになっている。地形図のアナグリフ化も、国土地理院のホームページ上で、非常に簡単に任意の縮尺で行うことができる。



磐梯高原(裏磐梯)地域も、磐梯山を含めて、アナグリフ化して、専用の赤と青のメガネで見ることで、まるで地形の石膏模型を見ているように立体的に見えてくる。アナグリフ用のメガネは、さまざまなものが市販されているが、今回配布したものは、紙製の簡易型のメガネで、100本で約2000円で購入した。



課題

ふりかえり

なまえ

最終的に6年生の子どもたちに配布した資料が、上図である。磐梯高原(裏磐梯)は、磐梯山の北麓に広がる、高原地帯をさす。ほぼ全域が、1888年(明治21年)の磐梯山噴火と山体崩壊に伴う、岩屑流(がんさいりゅう)によって形成された地形だ。授業では以下のように説明をし、最後に「林間学校ノート」に貼らせることにした。

**A; 磐梯山山頂と爆裂火口** 1888年(明治21年)に大噴火。山体崩壊を起こし、B→Cに向かって「岩屑なだれ」(がんさいなだれ)が発生。5つの村がほぼ全滅。約470人が死亡した。

**D; 檜原湖(ひばらこ)** 磐梯山の噴火によって、長瀬川(ながせがわ)がせき止められてできた湖。南北約18km、東西約1kmの細長い形。釣り、カヌー、遊覧船(現在は休止中)、冬はクロスカントリー・スキー、ワカサギの穴釣りなどが楽しめる。

**E; 小野原湖(おのわらこ)とG; 曾原湖(そばらこ)** この二つも、檜原湖と同じようにしてできた。

**F; 流れ山群** 山体崩壊によって運ばれてきた土砂が積もった、小さな山。たくさんあり、一部は檜原湖で島になっている。